

ごあいさつ

東日本大震災で被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。震災を受けられた各県からもご応募いただきました。私たちが励まされた感じがいたします。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

平成19年に「面打ちと能楽師の交流会」として発足しました島熊山能面祭は、審査委員の先生方と多くの面打ちの皆様のご多大なご協力により、第5回を迎えることが出来ました。厚くお礼申し上げます。

島熊山能面祭は「魅力ある能面」「演能で使用する能面」を目指し、日々努力されている面打ちの方々が能楽師との交流やアドバイス、舞台で使われる機会などを得ることにより目標に一つでも近づき、能面制作の励みになっていただくことを願っております。あわせて、後世に残る優れた新作面の発掘と将来的に魅力ある作品を生み出す基盤の拡大・育成を通じて、日本の伝統芸能「能楽」の発展に寄与し、支援することを目指してまいります。

能面は舞台で使われるのが本来の使命です。複数の能楽師の目で優れた作品を正當に評価する権威ある能面祭にすべく努力を続け、数多くの優秀作品を発掘し、能面制作のレベルアップに貢献できたと自負しております。

今回も全国131名の方々から能面192面、狂言面14面、合計206面（内、面打ち歴5年未満の「新人」は22名）の応募がありました。応募数も増え、作品の技術水準も向上し、「能楽師が舞いたくなるような能面」に近づきつつあると、実行委員会も喜んでいます。

最後に、審査やアドバイスをいただいた梅若 玄祥師、大槻 文蔵師はじめ、多くの能楽師の先生方が献身的に御協力いただいたことに、厚くお礼申し上げます。

また、ご後援いただいた豊中市長・豊中市教育委員会に感謝いたします。

平成23年8月21日
島熊山能面祭実行委員会

審査員総評

全体のレベルは上がっています。舞台で使える作品は多くありました。しかし「能楽師が舞いたくなるような能面」のレベルに上げるのはこれから難しいと思います。どう近づけるか課題です。

上手くなっているのですが、縫製が良すぎて小さくなり、ぼやけてしまう傾向もみられます。部分的でなく全体の力とバランスを考え総合的に良いものを打ってください。

そこまで似せるかと思うほどのレプリカ系の作品もあります。そのまま型や彩色を表面的に写すだけではだめです。表情や力強さ、可愛さ、美しさを写してください。どのような女性かなどと思いついて打つことも大切です。技術は上手くなっているのですが、技術が先に立って面白い面が少なくなっています。写しですから写しきった面も多いのですが、写すほど弱くなり、彫の力が無くなっているのはダメなのです。

骨格を表現するために影と表の彩色が過大に表現されている面も見られます。古彩色は必要です。しかし古く見せるものでなく、面に対して必要な彩色と考えてください。舞台に出て効果のある彩色。毛書き、彫り、型を考えてください。近くから見たら綺麗ですが舞台上昇ったら効果が無いのはだめです。創作面も同じです。

良い面は何十面に一面と云うこともあり、経験の少ない人が偶然作る場合もあります。思いを込め過ぎず、自然に、力を入れず素直に打つことも必要ではないでしょうか。

皆さんで「100年後まで残る、平成の名作」を是非作っていただきたいと思っています。そのためにも、是非多くの能面を見てください。そして多くの古面を見てください。（文責・事務局）



梅若 玄祥先生



小笠原 匡先生



左より大槻 文蔵、山本 博通、山崎 正通、赤松 精英、武富 康之各先生

大賞



梅若 玄祥賞

「童子」

住村 太（福岡県）

非常に単純で面に左右されないので演者が使いよい面です。童子らしい表情で良くできています。幅広い曲に使えますが、思いを含んだ曲には向かないでしょう。整った顔で彩色も良いのですが、少し毛細が多いようです。



大槻 文蔵賞

「増女」

原田 ちよ子（愛知県）

眼の上のくぼみの彫がとても良く、額から目にかけた表情に品もあります。しかし、強さに欠けます。少し下唇が出すぎているか、唇の赤が強いのが少し気になるようです。能舞台上で十分使えます。